

## 第26回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成23年8月27日（土）午後1時～

【場所】滝畑ふるさと文化財の森センター  
ふるさと歴史学習館

### 【出席者】

〈河内長野市文化振興計画推進委員会委員〉

谷 悟・千原 喜美・魚返 普子・川上 勝・小西 朋子・白井 春夫・寶楽 陸寛・  
松村 千恵子・南 美鈴・山田 淳子

〈滝畑ふるさと文化財の森センター〉

八百

〈ふるさと歴史学習館〉

谷口・松野

〈事務局（河内長野市教育委員会事務局ふるさと文化課）〉

井上・東畑・廣中

〈オブザーバー（財団法人河内長野市文化振興財団）〉

萬木・大久保

### 【配布資料】

- ・第26回河内長野市文化振興計画推進委員会次第
- ・第25回河内長野市文化振興計画推進委員会議事録
- ・河内長野市における歴史的資産を活用したプロジェクトの立案に向けての考察
- ・ラブリーニュース
- ・ラブリーホール各種公演チラシ

以上

○開会

委員長挨拶

○滝畑ふるさと文化財の森センターの事業と施設紹介

- ・進行：谷委員長
- ・説明：滝畑ふるさと文化財の森センター長 八百 統括主幹
- ・施設の特徴： 2010年4月に河内長野市立滝畑民俗資料館と青少年活動センターを統合した施設。資料館、茅葺屋根の民家、研修宿泊施設（150～170名宿泊可）等で構成。
- ・見学

◆質疑応答

寶楽委員

<滝畑ふるさと文化財の森センターで実施した事業の報告>

6、7月にこの施設で、かわちながの世界民族音楽祭 2011 ワークショップのリコーダーキャンプ、ミニアコーディオンキャンプを小学生から中学生を対象に開催しました。プロのアーティストに演奏を教わったり、高校生・大学生のキャンプリーダーに手伝ってもらい、川遊びを通して自然の音を楽しんでもらいました。会場をこの施設に選んだ理由は、天候に左右されにくいこと、自然に囲まれた環境で音楽を奏することで子供たちがどのように感じるかを知りたかったからです。

谷委員長

文化的なサークルが活用されるケースはありますか。

八百主幹

アウトドア商品の mont-bell 社が千石谷で沢登りのイベントをされていたので、当市が売り出している奥河内への観光とコラボレーション企画をしました。企業側の組むプログラムに学生ボランティアに入ってもらい、双方にとって刺激になったようです。また、お客様にも好評を得ました。さらに、民家棟では古民家コンサートを開催しました。

寶楽委員

これまで規制の厳しかった市の施設もこれらのようなイベントを開催することができるようになってきたので、アートが入る余地ができてきたように思います。

八百主幹

企画も運営も持ち込んでいただき生涯教育の一環となるのならありがたいと考えています。

川上委員

企画を持ち込んでもらい、活用してもらうためには、「使用法と成果」をもう少し発信していく必要があるのではと考えています。

寶楽委員

これからは、市民側が施設に企画を持ち込み、どう利用していくかが重要ではないかと感

じています。滝畑ふるさと文化財の森センターを皮切りに周辺の環境が変わっていけばおもしろいのではないのでしょうか。

○市立ふるさと歴史学習館の事業と施設紹介

- ・進行：谷委員長
- ・説明：ふるさと歴史学習館 谷口 館長、松野 学芸員
- ・施設の特徴：高向玄理ゆかりの地である河内長野市高向にあることから、くろまる館の愛称をもつ。旧石器時代から現代までの市内で発掘された遺跡や生活用品を展示。勾玉づくりなど歴史体験メニューも実施している。
- ・見学

◆質疑応答

谷委員長

展示以外にワークショップは行われていますか。

谷口館長

常時、歴史体験を実施しています。型紙の葉、勾玉、泥めんこ、石包丁、土笛づくりなどを行っています。また、季節に応じた講演会やシンポジウムを用意しています。

谷委員長

地元の人たちとの繋がりや、小学校・中学校との連携事業はありますか。

谷口館長

小学校6年生になれば、来館し、展示を見て、解説を聞き、先程申しました歴史体験をしていただいています。今年は8～9校来館していただきました。

川上委員

市内の小学校全校が来館するわけではないのですか。

谷口館長

交通手段が無く、また、交通費もつかないのでは来館していただけていないのが現状です。

川上委員

全校に来館し、是非見ていただきたい。

井上課長

来館していただけるのが一番ですが、それが難しい学校にはインターネット授業を試みています。

谷委員長

博物館、資料館などの施設では文化資源を管理していくということが重要な仕事だと思いますが、当委員会は、文化振興という側面から河内長野をもっと豊かにおもしろくするため、それとは異なる角度から、博物館との関係性を構築できないか考えています。今まで見学させていただいた既存の施設も様々な発想で企画を考えれば、より一層、集客が期待

できると思いますし、市民の方々もこれまでとは違う魅力に気付くことができるのではないかと考えています。

**魚返委員**

この館にあるジオラマがとても素晴らしく、感心しました。できるだけ多くの方に見てもらいたいと考えています。

**川上委員**

発掘する側には、発掘された段階で見せる責任が発生し、それと同時に市民には見る責任が発生すると私は考えています。そういう観点からすれば、子供たちには是非実物で見せるべきであると思います。実物を見てモノの力、エネルギーを感じていただきたい。

**谷委員長**

個人的には“古代人のヒト・モノの交流マップ”を作成すればおもしろいと思います。埋蔵文化財の報告書では一般の方には親しみづらいと思いますので、ネットワークをキーワードにすると河内長野を違った視点から興味深く見る事が出来るのではないのでしょうか。

次回開催予定 11月を目途に事務局と打合せの後決定